



図書日和

2020年5月号
鹿児島中央高等学校図書館
令和2年5月26日発行

今年度第1号の「図書日和」です。休業期間中に、自宅では読書の時間をつくることができましたでしょうか。図書館利用を心待ちしていた人もたくさんいて、毎日の利用者が増加しています。これからも皆さんが読書を楽しめるように、学びの場として図書館を活用できるように、環境を整えていきますので足を運んでもらいたいと思います。

図書館に行ってきたきれいになろうと猫が言った 国語科 福久高文 先生

私は図書館が好きである。土日は毎週のように図書館に行く。小さい頃もよく地元の図書館に行った。村上春樹「海辺のカフカ」の佐伯さんみたいな美人の館長には出会わなかったけど、私はそこに世界の秘密が隠されていると確信していた。

私には嫌な友人がいる。大学に入ってからで、いかにもの芸術家気取りで、しかも美男子、都会風で気の利いたことを機関銃のようにしゃべる。とにかく嫌いなのだが、こいつの教養は半端じゃなかった。そもそもグループサウンズしか聞いたことのない人間にショパンの恋人の話をするのだ。私がどれほど恐れおののいたか分かると思う。その詳しさや話しぶりは、なにやらジュルジュサンドと親戚づきあいをしているかのような勢いなのだ。教養の厚みの違いというもの恐ろしさを初めて知った。

こいつにクラシックからジャズ、ロックまで習った。レコードを聴かされて、「どうだ」と聞かれる。「うーん、なかなか深いね。」「おまえ深いといえば何でも片づくと思っただろうか。」怒られる。いいも悪いも全く分からない。ヤナーチェクも聞く。村上春樹「1Q84」、主人公の乗るタクシーで流れるやつだ。小林秀雄の「モーツアルト」、それもこいつに弦楽五重奏曲を聞かせてもらいながら納得した。私には到底知り得ない世界だった。

大学の時、山崎正和の「劇的な日本人」が出た。演劇好きの友人がわざわざ本屋まで同行し私に無理矢理買わせた本だ。しかしそれで初めて評論というもの面白いということを知った。「日本」とはに目覚めさせてくれた本だった。彼には芝居にも連れて行かれた。パルコで安部公房の「友達」を見たのが最初だった。そのとき幸運にも廊下で本物の安部公房を見た。小説家というものをそのとき生まれて始めて見た。思いがけないくらい小さな人だったが、いかにも世界の秘密を握っているように見えた。「壁」「他人の顔」「箱男」「燃え尽きた地図」安部公房の本は強靱でリアル、そして乾いている。

私はその後、仏文から来た院生と親しくなる。彼は文学に失恋して言語学に走った人だった。紹介された丸山圭三郎の「ソシュールを読む」で目からうろこが落ちるとい言葉が比喩ではないことを知る。明らかに風景が変わった。言語の秘密は世界の秘密。そこからウィトゲンシュタインの「論理哲学論考」へ。「およそ語りうることについては明晰に語りうる、そして、論じえぬものについては沈黙しなければならない」

私は今、量子力学に凝っている。それは世界の秘密を握る。そこで出会ったのが大澤真幸「量子の社会哲学—革命は過去を救うと猫が言う」、これは面白かった。社会学も哲学もそして科学もまとめて大統一理論を打ち立てようという野心にあふれている。なぜ量子力学が発想されたか。それを人の精神の歴史の必然に落とし込んでいく手際の良さ。

現代は便利な時代だ。好きな本をネットで注文できる。本屋に足を運ぶ必要はない。それは便利でよいことには違いない。しかしそれだけだと世界は広がらない。書店には自分の知らない最新の本が並ぶ。自分の精神が広い世界に触れたと感じる。しかし、本屋といえども資本主義の論理から逃れることはできない。素晴らしい本であっても片端から消えていく。通時的な発見は期待できない。図書館はそれができる。共時的通時的に世界を広げられるのは図書館だけだ。君たちはそこで世界に出会う。そして「他者」に出会う。「他者」に出会わなければ私は私にはなれない。

さあ、図書館に行こう。図書館で本を読む人は美しい。私が私であることをくっきりと映し出してくれるから。

< 図書館所蔵資料 > 「海辺のカフカ」 「モーツアルト」 「他人の顔」 「箱男」
「1Q84」 「友達」 「壁」 「燃え尽きた地図」

この3冊は、5月の新着書です！

- 『廉太郎ノオト』 谷津矢車／中央公論新社
- 『キャパとゲルダ』 マク・アソリ
マカ・ブド-ス／あすなろ書房
- 『フラミンゴボーイ』 マカ・モパ-ゴ／小学館

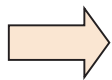
青少年読書感想文コンクール
高等学校の部 課題図書

知ってほしい図書館のこと

『図書日和』は、鹿児島中央高校HPで見ることができます。カラー版できれいです！

1 借り方

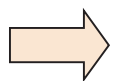
- (1) カウンターで、係に「借ります」と伝える
- (2) 借りる本と自分の利用者カードを手渡す
- (3) 貸出処理を終えたら、利用者カードをカードケースに戻す



皆さんの利用者カードを使用して貸し出します。図書委員が、利用者カードのバーコードと図書のバーコードをスキャンして貸出を行います。

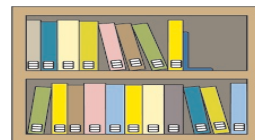
2 貸出冊数・貸出期間

- (1) 貸出冊数 5冊
- (2) 貸出期間 1週間



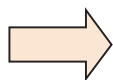
1週間の貸出期限は必ず守りましょう

予約が入っていたり、借りたい人が待っている場合もあります。予約がなければ1週間延長できます



3 返し方

- (1) カウンターで、係に「返却します」と伝える
- (2) 延長の場合には、その旨を伝える
- (3) 本を手渡す



公共図書館や大学図書館なども利用しましょう

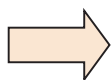
本校図書館以外の所蔵状況も調べることができます。県立・市立・鹿児島大学附属図書館でも図書を借りることができます。(各図書館のカード発行必要)

4 予約・リクエストサービス

- (1) 借りたい本が貸出中・・・予約しよう
- (2) 読みたい本が図書館に所蔵していない・・・リクエストしよう

5 レファレンスサービス (調査相談)

「書名はわかっているけど、どこにあるの？」
 「こんな感じの本を探しているのだけど・・・。」
 「〇〇について知りたい。どんな本で調べたらいいの？」



どんな時にも相談してください

いっしょに探したり、役立つ図書や情報を紹介します。



5月の新着書 今日から貸出できます！



No.	分類	書名	著者名	出版社
1	913	クスノキの番人	東野圭吾	実業之日本社
2	8168	武器としての言葉の力	柏耕一	三笠書房
3	8079	笑う回文教室	せとちとせ	創元社
4	4938	感染症大全	堤 寛	飛鳥新社
5	913	木になった亜沙	今村夏子	文藝春秋
6	8104	いつも日本語で悩んでいます	朝日新聞校閲センター	さくら舎
7	914	笑って生ききる	瀬戸内寂聴	中央公論新社
8	913	流浪の月 本屋大賞受賞作	凧良ゆう	東京創元社
9	913	東京オリンピックの幻想	西村京太郎	文藝春秋
10	4818	先生、大蛇が図書館をうろついています!	小林朋道	築地書館
11	913	銀行狐	池井戸潤	講談社
12	498	人類と病	詫摩佳代	中央公論新社

「ウイと言う」「竹筒、見つけた」「たまにガニマタ」…。切れ味シャープなオリジナル作品を楽しみ絵とともに紹介しながら、つくり方のコツも書いてあります。回文を楽しんでみましょう。

泣きたいときは辛抱しない。現世なんてサンドイッチのハムより薄い…。健康・子育て・若い・人づきあい。迷った時に立ち戻りたくなるような著者の熱く優しい希望のことばを紹介しています。

ペスト、エイズ、新型コロナウイルスなどの感染症は次々と襲いかかり、その一方では、生活習慣病や医療格差などの問題も深刻。これからも続く人類と病の闘いに必要なことは何かを考えさせてくれます。

海音寺潮五郎記念文芸セミナー受講者募集！！

教室掲示を行っていますので、希望者は5月28日(金)までに図書館へ申込用紙を持参してください。昨年受講した江口佳穂さん(2年7組)の作品「翔ける思いは形となって」は、図書館所蔵の受講生作品集『潮音～若人の樹～』p2～18 に掲載されています。カウンターに展示していますので読んでください。

今月号では、福久先生が、本や人との出会いや読書の大切さとともにたくさんの本の紹介をしてくださりました。これらの本は図書館に展示してありますので手にとってみましょう。

図書館では、手指消毒の励行をお願いし、座席の間隔をとり、カウンターに透明シートを設置し、返却図書の消毒・拭き取りをするなどの感染症対策を行っています。今後もみんなで協力し気をつけていきましょう。